

をおえてペキンを引きあげた昭和6年の春ごろはそうであり、何でも有史以来の銀の暴落ということであった。唐さんという中国人の家に寄宿していた私の生活費などは問題でなく、おかげで存分に本が買えた。聴講生として通っていた北京大学の講義がすむと、ほかに行くところもないので、古本屋を回った。最大の書店街の琉璃廠では来薰閣、もう一つの書店街の隆福寺では文奎堂が、もっともなじみであった。夕方まですわりこみ、晚めしの御馳走になることもあった。留学費は3カ月分まとめて来る。今の金で5,60万円がとどく。手もとにおいておいてもしょうがないので、ある晚めしのおり、来薰閣の主人陳済川に、君にあずけておこうかという、彼は顔をかがやかせて感謝し、いくら利息をさしあげましょと、真顔できいた。利息はいらない、よい本が出たら、さきに知らせてくれという、一そう感謝された。しかし後学のため、この利息はいくらぐらいかときくと、銀行は貸してくれず、町の金融業者からだが、毎月1分2と答えた。1分2という中国語が1割2分を意味するとすれば、大へんな高利だと、感心した。そうしたわけで、ペキン留学中の私は、俄か分限であった。こちらから本屋へ出かけるばかりでない。朝おきると、本屋の番頭が門番の部屋で待っている。多いときは5軒10軒、私はつぎつぎに引見し、藍色のフロンキをひろげさせる。ねぎらないのを原則とし、初めての本屋にはそのことを説明して、正直なねだんをいわせる。帰国するときには、途中、江南を回ったが、その旅費としてまた500円もらった。買った本を郵便小包何百包かにして日本へ送るのに200円かかったが、あとの大部分は、さいごの購書の資金となった。そうしてもって帰った本が、今の私の蔵書の中心となっている。ただし戦後、大分売りもした。しかし蔵書の半分以上は、やはりその時の本である。なお事のついでに書いておけば、私に留学費を下さったのは、上野さんという京都の実業家が、主として中国学のためにと、京都大学に10万円を寄付された金の利子であると聞いた。私ばかりでなく、現在中堅の学者である何人かが、この金で中国へ留学した。今はどうなっているかと、いつか学生課へ聞きにゆくと、基金はたしかに保管しています。ただしみな南満州鉄道の株券です。もう一度値が出たら、お役に立てましょとの話であった。

そうしたことで、またその後はあまり本を買う能力がないが、それにしてもやはりぼつぼつと買った本、また人さまからももらった本が、ちょうど本の脊にいつのまにかたまるほこりのように、たまりたまって、私の蔵書はある量になる。ところで私は近ごろそれに厄介を感じている。個人の蔵書のもつ制約を、しみじみと感じている。ほしい本が存分に買えないという制約ばかりではない。整理の制約である。せまい書庫に乱雑にほうり込んだもの、ことに零細なものは、どこにどうおいたか、それをさがすのに、半月つぶすことがないではない。けっきょく自分ももっていることはたしかなのに、図書館から借りること、またしばしばである。図書館ならば、カードをくれば、すぐ借れる。

つまらない私事を書いて来たのは、何でもよいからという館長堀江さんの依頼の言葉に甘えたからでもある。文学部紀要のための執筆に、この夏休みはあけてくれ、この原稿のための余裕をもちにくかったためでもある。しかし実は、個人の蔵書のもつ制約を語り、それと対比してもつ公共図書館の便利さ、それを強調したかったからであった。残念ながら強調するための時間はなくなり、紙数もおそらくはない。強調は館の関係者にまかせるとしよう。(文学部教授)

—— 学生との図書館懇談会開く ——

図書館が大学にとって不可欠な施設であることはいうまでもないところで、これの改善・充実については常にいろいろと努力

されてきた。図書館利用者のうち最も大きな比率を占める学生諸君の意見や希望を聞いて、これを改善策の参考にしたいという

ことは、従来からたびたび話題になりながらその機会を得なかったが、はじめての懇談会を6月12日（金）図書館会議室において開催した。

図書館としては最初の試みであり、期待は大きかったが、学生側としても初めてのことでためらいの気持があったためか、参加者は法学部4回生3名、同3回生1名、同1回生1名、文学部4回生1名、理学部1回生1名の7名であった。

まず館長より「近年大学図書館の近代化ということがしきりに叫ばれているが、当図書館においてもそのひとつとして指定図書制度および参考室の充実をはかりたいと思っている。また「図書館報」を発行、学生とのコミュニケーションをよくする手段のひとつにしたいと考えております。今日のおつまりも、そういった構想のもとにひらいたので、遠慮なくご感想や要望を述べていただきたい」と挨拶があり、図書館側出席職員の紹介をおこなって後、出席学生に自己紹介とともに各自の意見を述べてもらうことにした。

学生A—この頃閲覧室が大へん騒がしく、落付いて勉強できません。開架室ができたのはよいが、閲覧室がせまくなったのは困ります。試験シーズンはもちろんのこと平常も満員のことが多く、閲覧室の拡張の意味からも増築を考えてほしい。冬季の暖房設備が不十分で、ストーブから少しはなれると、もう寒くて勉強しておれません。

学生B—自分は座席だけ利用することが多いが、閉館時間をもう少し延長していただけませんか。夕食をすませてちょっと休養して図書館にくる。さてこれからという頃、はや閉館のベルが鳴るので困ります。またときどき閉館時間にまだ間があるのに、ベルが長々と鳴ることがありますが気をつけてほしい。

学生C—閲覧室の照明が大へん暗いよう

にと思いますが、図書館として照明度を計られたことがあるでしょうか。図書館の図書費というのは一体どれくらいですか。またこの図書館には宗教新聞や政党新聞、たとえば創価学会の聖教新聞や共産党のアカハタはとらないのですか。

学生D—カード室の目録が大へんひきにくいので検索の仕方をくわしく掲示してほしい。開架室の図書を借りて、さらに書庫の本を閲覧する時、またはその逆の場合でも、先に借りた図書のために学生票が預けてあるため、あとで借りる時は、わざわざ先に借りた方から証明書をもらわないと借りられないのは不便です。

学生E—僕も閲覧室の照明が大へん暗いと思います。是非なんとかしていただかないと目が悪くなりそうです。また閲覧室が本当にやかましいです。静かになるようはり紙でもして下さい。それから、法・経済学部閲覧室がないので、両学部の本を閲覧したい場合、図書館から借りてもらって読むことになっていますが、その手続きが大へん手間どりますので、もっと簡単に読める方法を考えて下さい。開架室ができたのは便利ですが、とても狭苦しいのもっとひろげて頂きたい。それに3階の増築という問題があるとかきいていますがどうですか。

学生F—この図書館は中央図書館といわれていますが、自分としてはこの図書館の性格がはっきりわからないのです。自分の場合は学部図書室がありますから、結構それで間にありますが、この図書館がどういった図書に重点をおいて集めているかという性格がわからないだけに、使いにくい気がします。それになれていないから目録カードも大へんひきにくいです。

学生G—カードがひきにくいのは僕も同感です。それに貸出しのできる本は古いばかりで、新しいのは開架室にでている貸出しできませんが、図書を購入する時、開

架室用と貸出用と2冊買うというぐあいにしていただけませんか。また開架室の図書の排列が大分乱れているように思います。次に、開架室ができてから閲覧事務室が5時で閉室されるため、書庫から出してもらった図書は5時までに返納しなければならぬのは大へん不便です。閲覧室は8時まで開いているのですから、書庫から出してもらった本も5時以後は開架室のカウンターに返却すればよいというようにしていただければ助かりますが。雑誌が製本に出されると、今度閲覧できるようになるまで相当の期間がかかりますが、試験期のことも考えて製本してほしい。それに図書館の近代化ということですが、専門の相談係りがほしいです。

以上のように学生から大変活潑な意見や要望が述べられたのに対し

館長一まず図書の購入費ということですが、図書館の予算と学部予算について申しますと、昨年度の図書館の図書の購入費は約450万円で、それに対したとえば経済学部の図書の購入費は約800万円なのです。大学予算というものは大体1講座当りにいくら、それに講座数をかけ、さらに学生経費等をプラスし、それから共通経費をさしひいたものがその学部の予算となります。そのうちある程度が研究図書費ならびに学生用図書費になるのです。しかし図書館には講座や学生経費等そういったものはありませんので、図書の購入費については、学部からみれば非常に苦しい立場にあるのです。

つぎに読書相談については参考掛がありますが、十分な活動はできていません。外国では各専門の図書館員がいて相談に応じていますが、現在の日本ではまだまだそこまでできません。また閲覧室の照明のことで大へんきびしいご意見が出ていましたが、図書館としては照明度を計ったことはあります。しかしそれから大分時期がたっ

ておりますので早速善処いたします。それから夜間の閉館時間の延長ですが、これはすぐにはよいお返事はできません。といいますのは人員の枠があるので夜間の専任者がおけないため、職員が交代で居残り勤務してまかなっておりますので、職員の健康管理の上からも今のところご期待にはそえません。

整理課長一図書館の性格論について大へん痛いご意見がでしたが、研究用の専門図書は各学部で購入しますので、図書館では学生が4年の過程を終えるに必要な参考図書や教養的な図書を購入するように心がけております。つぎに政党新聞や宗教新聞についてですが、図書館という立場から思想的に、また宗教的にかたよることはできませんので、購入はしておりません。

閲覧貸付掛長一開架室の図書の排列が乱れているというお話ですが、掛のものは常に気をつけてはおります。何分にも数が多いのでなかなか思うようにはゆきません。学生各自も図書を乱さないようご協力下さい。

閲覧課長一いろいろ出されました細かいご意見に対しましてもよく検討して善処するようにいたします。

図書館長に出していただいた菓子をつまみながらの懇談会は、出席者は少数であつたが、実に熱心に意見が述べられ、はじめての懇談会としてはまずは成功ということで5時散会した。

このような催しは今回を契機として今後も機会をみて続ける予定であり、よりよい図書館づくりのため、もっと多くの学生が参加し、意見を述べられるよう切望する。

注・学生より出された意見のうち、閲覧室の照明については早速蛍光灯をとりかえるよう準備中です。また書庫から出した図書の返納も、5時以後は開架室のカウンターに返却すればよいようにしました。その他の件についても検討中です。